

公益財団法人 千里文化財団
2021 年度事業計画及び収支予算書
(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

2021 年 4 月

※新型コロナウイルスの影響により開催内容を変更する場合があります。

2021年度事業計画書（2021年4月1日～ 2022年3月31日）

当財団の目的は、「この法人は、文化人類学・民族学等の振興を図るため、関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、地域社会に根ざしつつ、ひろく国際社会に貢献する」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進し、文化振興や次世代育成等を含め、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

2020年度は2020年2月28日からの新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館が6月17日まで継続し、約4ヵ月間の館内のショップ事業と展示案内学習支援業務が中止となり、ショップ事業職員、友の会事業等職員について雇用調整助成金の申請をおこなった。展示案内学習支援業務の常勤職員については資料整理等の業務に振り替えることができたが、臨時職員（非常勤）については、緊急事態宣言が発令された4月上旬より業務中止（休業）とせざるを得なかった。休業対象となった臨時職員には2回休業手当を支給し、雇用調整助成金の申請をおこなった。また事業収入減少については持続化給付金を申請し受理され、また家賃支援給付金についても賃料の負担の軽減のため申請をおこなった。政府の助成金等の資金援助によって上半期の人件費等は確保ができたが、再開以降も入館者数が伸び悩み、年末年始の感染拡大の状況のもと、維持会員の登録数が減少し、ショップ事業においても運営が厳しく先行きが見通せない状況となっている。

当財団の公益認定申請については、予定通り2020年秋に内閣府へ申請し、無事2021年2月に認定された。事業の継続維持にむけた体制に一步前進した。2021年度は公益財団法人として寄附活動を積極的におこなうとともに、事業についてはオンラインでのプログラムの充実を図っていく。

定款で定められている事業（第4条）

- (1) 文化人類学・民族学等に関する普及事業
- (2) 国立民族学博物館及び各種機関の活動に対する支援及び利用促進事業
- (3) 文化に関する各種事業の企画・運営及び各地域の文化振興に対する協力事業
- (4) 第1号から第3号にかかわる各種調査・研究の推進事業
- (5) この法人の目的にふさわしい諸活動に対する協力事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2021年度の重点的な取り組み

- (1) 公益認定に伴う広報事業
- (2) オンラインを併用した事業
- (3) 文化多様性の視点でSDGsを考察する事業

1.文化人類学・民族学等普及事業

一般市民を対象に、文化人類学・民族学の普及のため、国内唯一の文化人類学・民族学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータ整備と活用支援（受託事業）
膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理し、総合的に関連付けた基礎データ作成、及び利活用（原資料の保存、原資料のデジタル画像化によるデジタルアーカイブズの構築、閲覧、展示ほか）の支援をおこなう。

- 2) 文化人類学・民族学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行
 家庭学術雑誌『季刊民族学』4号（176号～179号）の編集、発行、広報普及活動
 ※172号より、普及活動として書店での取扱いを促進するため取次会社を通して全国の書店に配本している。別紙1：2021年度『季刊民族学』企画内容（案）
- 3) 国立民族学博物館、及び文化人類学・民族学の普及を目的とした各種講演会及びセミナー等の企画・運営 別紙2：2021年度講演会等企画内容（案）
- 4) 関連分野の研究活動の普及を目的とした事業の協力

2.国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

- 1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作事業
 巡回展図録『子ども/おもちゃの博覧会』第2版のレイアウト業務（2021年7月刊行予定）
- 2) 国立民族学博物館の展示理解向上のための教材頒布、及び広報普及事業としてのミュージアム・ショップの運営事業
 - ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示案内』、特別展及び企画展の解説書、
『月刊みんぱく』、『研究報告』、『民博通信』等国立民族学博物館の刊行物の頒布
 - ② 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布
 - ③ 国立民族学博物館オリジナルグッズの開発・販売
 展示品のレプリカ、カレンダー、ポストカード、Tシャツ、クッキー、スタンプ、
クリアファイル、トートバッグ、ステッカー、鉛筆、ノートブック、レターセット等
 - ④ 現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の販売
- 3) 国立民族学博物館の普及事業
 - ① 「国立民族学博物館友の会」の運営、及び会員の増強
 国立民族学博物館並びに文化人類学・民族学の普及を目的とし、千里文化財団が国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる友の会を設け、博物館の活動を支援するとともに、市民の博物館活用を促す。
2021年度の取り組み
 会員種別毎に広報内容と対象を絞り、会員増強を目指す。
 → 入会キャンペーンの実施 ※実施時期は新型コロナウイルス感染症の状況により調整
 → 万博記念公園関連施設との連携の強化
 → 催し（サービス）の充実：他の文化施設等との連携事業 他
 → キャンパスメンバーズの特典及び紹介コーナーの見直し
 - ② 「国立民族学博物館友の会ニュース」の制作・発行（年6回発行）
 - ③ 国立民族学博物館キャンパスメンバーズの運営
 - ④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務（受託事業）

⑤ 国立民族学博物館オリジナルカレンダーの制作及び頒布

4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業

① 展示案内学習支援等業務を受託し実施する。(受託事業)

展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務

② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施する。(受託事業)

標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等をおこなう業務

③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施する。(受託事業)

国立民族学博物館の民族学資料(標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び研究アーカイブズ資料)について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務

④ 関連催し物の開催支援及び運営事業(受託事業)

5) その他 国立民族学博物館活動に協力する事業

① 国立民族学博物館 特別展「復興を支える地域の文化—3.11 から 10 年」(3月4日～5月18日)、「ユニバーサル・ミュージアム—さわる!“触”の大博覧会」(9月2日～11月30日)、及び企画展等各種催しに対する協力

② 研究普及活動に対する協力

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究

① 出前授業プログラム開発及び普及

② 各地の博物館等を活用する巡回展や展覧会：

タイトル：特別展「ピース—つなぐ、かざる、みせる—(仮)」 ※別紙3 参照

開催期間：9月19日(日) ～ 11月23日(火・祝) 予定

会場：国立アイヌ民族博物館(北海道白老郡白老町若草町2丁目3-1)

2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究

① 指定管理者制度に基づく博物館運営に関する調査研究

② 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究

3) 各地の博物館展示案内等の編集業務

① 『滋賀県立琵琶湖博物館 展示案内』(日本生命財団より受託。2022年2月納品予定)

② 『北海道博物館 展示案内』(日本生命財団より受託。2023年2月納品予定)

4.地域活性化・文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力する。

1) 日本万国博覧会記念公園関連施設との連携事業

2025 年大阪・関西万博にむけたシンポジウム等の開催を予定

2) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する委員会運営業務（松下幸之助記念財団より受託）

第 30 回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施する。

「松下幸之助花の万博記念賞」：花の万博の基本理念「自然と人間の共生」の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰している。

3) 学会等の事務及び運営業務

① 日本展示学会の事務業務

「日本展示学会」の事務局業務を受託し実施する。

「日本展示学会」：展示に関する研究を技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。982 年に、国立民族学博物館において設立された。

② 学会等、学術団体関連事業の運営サポート

4) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行

『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌。

第 154 号～第 157 号の 4 号の編集を受託し発行する。

5) 長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力

長野県内の文化施設での講演会等の開催協力

2021年度収支予算書（正味財産増減計算ベース）

（2021年4月1日～2022年3月31日）

（単位：円）

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,000	3,000	0
基本財産受取利息	3,000	3,000	0
受取会費	36,900,000	37,550,000	△ 650,000
維持会員	12,000,000	12,000,000	0
正会員	21,000,000	21,000,000	0
家族会員	100,000	100,000	0
キャンパスメンバーズ	2,150,000	2,800,000	△ 650,000
ミュージアム会員	1,200,000	1,200,000	0
フリーパス会員	450,000	450,000	0
事業収益	242,096,000	251,446,000	△ 9,350,000
事業収益	45,950,000	59,000,000	△ 13,050,000
受託事業収益	195,146,000	191,446,000	3,700,000
広告収益	1,000,000	1,000,000	0
受取補助金等	1,000,000	1,000,000	0
受取助成金	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	1,000	1,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	280,000,000	290,000,000	△ 10,000,000
(2) 経常費用			
事業費	254,662,000	263,229,000	△ 8,567,000
給料手当	121,500,000	123,000,000	△ 1,500,000
臨時雇賃金	29,000,000	27,000,000	2,000,000
退職給付引当金繰入額	1,000,000	0	1,000,000
退職手当	0	5,000,000	△ 5,000,000
法定福利費	21,200,000	21,800,000	△ 600,000
福利厚生費	500,000	610,000	△ 110,000
旅費交通費	4,900,000	3,900,000	1,000,000
通信運搬費	8,200,000	4,800,000	3,400,000
減価償却費	180,000	180,000	0
事務委託料	100,000	100,000	0
印刷製本費	11,200,000	11,200,000	0
諸謝金	1,300,000	1,300,000	0
会議費	1,000,000	1,000,000	0
光熱水費	400,000	509,000	△ 109,000

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
消耗品費	1,300,000	1,300,000	0
負担金(租税公課)	17,232,000	17,000,000	232,000
原稿写真委託報酬	2,200,000	2,280,000	△ 80,000
支払手数料	550,000	700,000	△ 150,000
賃借料	3,600,000	2,550,000	1,050,000
修繕費	50,000	50,000	0
著作権等使用料	50,000	50,000	0
教材等制作購入費	27,800,000	37,100,000	△ 9,300,000
教材出版物等棚卸差額	1,200,000	1,500,000	△ 300,000
館内サービス関係費	200,000	300,000	△ 100,000
管理費	24,430,000	25,500,000	△ 1,070,000
給料手当	14,100,000	14,100,000	0
臨時雇賃金	100,000	100,000	0
退職給付引当金繰入額	1,000,000	0	1,000,000
退職手当	0	2,000,000	△ 2,000,000
法定福利費	2,000,000	2,200,000	△ 200,000
福利厚生費	100,000	80,000	20,000
旅費交通費	150,000	150,000	0
通信運搬費	650,000	680,000	△ 30,000
減価償却費	30,000	30,000	0
印刷製本費	200,000	160,000	40,000
諸謝金	3,400,000	3,400,000	0
会議費	50,000	70,000	△ 20,000
光熱水費	120,000	100,000	20,000
消耗品費	660,000	660,000	0
負担金(租税公課)	300,000	300,000	0
原稿写真委託報酬	250,000	250,000	0
支払手数料	120,000	120,000	0
賃借料	1,150,000	1,000,000	150,000
修繕費	50,000	100,000	△ 50,000
経常費用計	279,092,000	288,729,000	△ 9,637,000
当期経常増減額	908,000	1,271,000	△ 363,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	908,000	1,271,000	△ 363,000
一般正味財産期首残高	22,816,796	21,545,796	1,271,000
一般正味財産期末残高	23,724,796	22,816,796	908,000
Ⅱ 正味財産期末残高	23,724,796	22,816,796	908,000

収支予算の事業別区分経理の内訳表

(2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計		法人会計	合計
	公益			
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
基本財産運用益	0		3,000	3,000
基本財産受取利息			3,000	3,000
受取会費	3,800,000		33,100,000	36,900,000
維持会員	0		12,000,000	12,000,000
正会員	0		21,000,000	21,000,000
家族会員	0		100,000	100,000
キャンパスメンバーズ	2,150,000		0	2,150,000
ミュージアム会員	1,200,000		0	1,200,000
フリーバス会員	450,000		0	450,000
事業収益	242,098,000		0	242,098,000
事業収益	45,950,000		0	45,950,000
受託事業収益	195,146,000		0	195,146,000
広告収益	1,000,000		0	1,000,000
受取補助金等	1,000,000		0	1,000,000
受取助成金	1,000,000		0	1,000,000
雑収益	0		1,000	1,000
受取利息			1,000	1,000
経常収益計	246,898,000		33,104,000	280,000,000
(2)経常費用				
事業費	254,662,000		0	254,662,000
給料手当	121,500,000		0	121,500,000
臨時雇賃金	29,000,000		0	29,000,000
退職給付引当金繰入額	1,000,000		0	1,000,000
退職手当	0		0	0
法定福利費	21,200,000		0	21,200,000
福利厚生費	500,000		0	500,000
旅費交通費	4,900,000		0	4,900,000
通信運搬費	8,200,000		0	8,200,000
減価償却費	180,000		0	180,000
事務委託料	100,000		0	100,000
印刷製本費	11,200,000		0	11,200,000
諸謝金	1,300,000		0	1,300,000
会議費	1,000,000		0	1,000,000
光熱水費	400,000		0	400,000
消耗品費	1,300,000		0	1,300,000
負担金(租税公課)	17,232,000		0	17,232,000
原稿写真委託報酬	2,200,000		0	2,200,000
支払手数料	550,000		0	550,000
賃借料	3,600,000		0	3,600,000
修繕費	50,000		0	50,000
著作権等使用料	50,000		0	50,000
教材等制作購入費	27,800,000		0	27,800,000
教材出版物等棚卸差額	1,200,000		0	1,200,000
館内サービス関係費	200,000		0	200,000
管理費			24,430,000	24,430,000
給料手当			14,100,000	14,100,000
臨時雇賃金			100,000	100,000
退職給付引当金繰入額			1,000,000	1,000,000
退職手当			0	0
法定福利費			2,000,000	2,000,000
福利厚生費			100,000	100,000
旅費交通費			150,000	150,000
通信運搬費			650,000	650,000
減価償却費			30,000	30,000
印刷製本費			200,000	200,000
諸謝金			3,400,000	3,400,000
会議費			50,000	50,000
光熱水費			120,000	120,000
消耗品費			660,000	660,000
負担金(租税公課)			300,000	300,000
原稿写真委託報酬			250,000	250,000
支払手数料			120,000	120,000
賃借料			1,150,000	1,150,000
修繕費			50,000	50,000
経常費用計	254,662,000		24,430,000	279,092,000
当期経常増減額	△ 7,768,000		8,674,000	908,000
2. 経常外増減の部				0
(1)経常外収益				0
経常外収益計	0		0	0
(2)経常外費用				0
経常外費用計	0		0	0
当期経常外増減額	0		0	0
当期一般正味財産増減額	△ 7,768,000		8,674,000	908,000
一般正味財産期首残高				22,818,798
一般正味財産期末残高				23,724,798
II 正味財産期末残高				23,724,798

2021 年度「国立民族学博物館友の会」機関誌『季刊民族学』企画内容（案）

176号（4月25日発行予定）

① 特集「隣りのアフリカ人——グローバル世界を生きる人びと（仮）」

特集のねらい：21世紀にはいり、中国、ベトナム、日本などアジアをめざすアフリカ人が増加している。商売や出稼ぎ、留学など目的はさまざまだが、音楽やダンス、宗教、料理、サッカー、ヒップホップなど、多様な文化とともに遠く故郷を離れアジアにやってきたアフリカの人びと。よりよく生きるために、世界を自在に行き来する心性の源をあきらかにし、アフリカーアジアが共鳴しあう現代文化のゆくへを考える。

〈特集構成〉

- ・和崎 春日（中部大学名誉教授） テンベアとダンイスカ：移動アフリカ人の放浪と定住の論理
- ・ウスビ・サコ（京都精華大学） アフリカから見た日本社会
- ・松本 尚之（横浜国立大学） 遠い日本から民族独立を願う：日本に暮らすイボ人たちとピアフラ戦争
- ・小川 さやか（立命館大学） ギグワーカー化するタンザニアのインフォーマル経済
- ・川瀬 慈（民博） リトル・エチオピア 東京におけるエチオピア世界の創造
- ・村橋 勲（東京外国語大学） 仲尾周一郎（大阪大学講師） 留学という旅：日本のスーダン人
- ・菅野 淑（愛知淑徳大学） 日本におけるアフリカン・ダンス
- ・鈴木 裕之（国士舘大学） 日本に響くアフリカ音楽
- ・矢野 原佑史（京都大学） ケニアから来たゴスペル・ラッパー
- ・鈴木 英明（民博） メリカリがジャパニになったころ
：1935年、アフリカ大陸東部のメイド・イン・ジャパン

② 誌上再録◎石毛 直道 × 吉田 憲司 × 飯田 卓

第 500 回国立民族学博物館友の会講演会・梅棹忠夫生誕 100 年記念対談

「知的生産のフロンティアの原点：探検家 梅棹忠夫を語る」

③ 連載「モノから見た宗教の世界」第四回

鳥谷 武史（金沢大学）「日本の生活に息づく宗教：モノとまじないのかたち」

177号（7月25日発行予定）

① 特集：「焼畑と現代文明：佐々木高明のみた焼畑」

特集のねらい：国立民族学博物館の第 2 代館長を務めた佐々木高明氏は、焼畑研究の第一人者、照葉樹林文化論の提唱者のひとりとして知られている。1958-60 年に国内「最後の焼畑」を調査するために五木村を訪問、その後、国内外で焼畑の調査研究を進め、『稲作以前』『日本の焼畑』『熱帯の焼畑』などの著書を著した。今日、持続可能な農法として再評価する動きがみられる焼畑は、現代文明のなかの食と農と森のあり方や、都市や水田中心の日本文化館に見直しを迫っている。いまあらためて焼畑のもつ可能性を考えたい。

〈特集構成〉

- ・池谷 和信（国立民族学博物館） 佐々木高明のみた焼畑：五木村から人類史を構想する
- ・川野 和昭（元鹿児島県立黎明館学芸員） 焼畑民の心を求めて
- ・前田 一洋（肥後考古学会会員） 焼畑と山の暮らし

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| ・ ヨーゼフ・クライナー | コラム：佐々木高明の日本文化形成論について |
| ・ 藤尾 慎一郎（国立歴史民俗博物館） | 「稲作以前」の考古学 |
| ・ 福原 博信（ヒストリアテラス五木谷副館長） | 五木村の縄文と弥生 |
| ・ 野林 厚志（国立民族学博物館） | 粟の儀礼と消えた焼畑 |
| ・ 中井 信介（佐賀大学） | 移動する民の焼畑の変容 |
| ・ 佐藤 廉也（大阪大学） | エチオピアの近代化と焼畑 |
| ・ 江頭 宏昌（山形大学農学部教授） | 日本の在来作物と焼畑 |
| ・ 寺島 悠（五木郷土研究会会員） | 五木村の在来作物 |
| ・ 木野 徹也（ヒストリアテラス五木谷館長） | 焼畑・博物館・地域社会 |
| ・ 佐々木長生（元福島県立博物館） | 『会津農書』に見る焼畑の民俗知 |
| ・ 田村誠志（五木中学校教諭） | 学校教育と焼畑 |

② 連載「モノから見た宗教の世界」 第五回

二ツ山 達郎（平安女学院大学）

③ 記事◎大石 侑香（神戸大学大学院講師）

178号（10月25日発行予定）

① 特集：「布と人（仮）」

特集のねらい：動物の皮をなめし、つなぎ合わせる。植物素材を撚り、糸を紡いで、布を織る。できあがった一枚の布に人は何を夢見たのか。民博では10月より企画展「躍動する布（仮）」が開催される。この機会に、世界にみる多様な布をとおして、人と布の関係のありよう、さらにその変容の歴史を考えてみたい。

② 連載「モノから見た宗教の世界」 第六回

小西 賢吾（金沢星稜大学）

③ 記事◎山本文子（民博外来研究員）

179号（2022年1月25日発行予定）

① 特集「仕事の人類学（仮）」

特集のねらい：国立民族学博物館の共同研究「ジェンダー視点による『仕事』の文化人類学的研究」の成果を軸に、人類学的アプローチとジェンダーの視点を積極的に用いつつ、多種多様な働き方についての事例を紹介し、「働き方改革」が叫ばれる現代社会において働くことの意味と可能性について考える。

② 連載「モノから見た宗教の世界」 第七回

田村 うらら（金沢大学）

2021年度「国立民族学博物館友の会」講演会等 企画内容(案)

1) 国立民族学博物館友の会講演会

新型コロナウイルスの感染予防のための博物館活動の方針に基づき、昨年度は一部開催を見合わせるとともに、オンライン中継を併用しながらの開催となった。2021年度についても、博物館活動の方針により開催方法(オンライン中継のみ、オンライン中継併用等)を調整する。

【会場：国立民族学博物館】 通算回数(開催日)：「演題」/ 講師(所属)

開催日時：毎月第1土曜日、13:30～14:40

(講演終了後の見学会もしくは懇談会は当面の間、実施を見送る。講師了承時、オンライン中継を併用。)

第511回 4月3日(土) [みんなく名誉教授シリーズ]

「『食』を学問にする」朝倉敏夫(民博名誉教授)

第512回 5月1日(土)

「アジア鍵盤楽器考」岡田恵美(民博准教授)

第513回 6月5日(土)

「女神となった疫病—インドの天然痘女神信仰」三尾稔(民博教授)

第514回 7月3日(土)

「河西回廊の石窟寺院と美術」末森薫(民博助教)

第515回 8月7日(土)

「ヴァヌアツの呪術を理解する(仮)」白川千尋(大阪大学教授)

第516回 9月4日(土)

※調整中

第517回 10月2日(土) [特別展「ユニバーサル・ミュージアム」関連]

※テーマ調整中 辰巳明久(京都市立芸術大学教授)、広瀬浩二郎(民博准教授)

第518回 11月6日(土)

※調整中

第519回 12月4日(土) [企画展「躍動する布(仮)」関連]

※テーマ調整中 上羽陽子(民博准教授)

第520回 2022年1月8日(土)

※調整中

第521回 2022年2月5日(土)

テーマ：アンデスに博物館をつくる—地域の記憶と文化遺産(仮)

関雄二(民博教授)

第522回 2022年3月5日(土)

※調整中

【会場：東京他】 通算回数（開催日）：講師(所属) / 「演題」

開催日時：不定期、13：30～14：40（見学会もしくは懇談会は当面の間、実施を見送る。）

新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、下半期に2回程度実施したい。

第129回 10月30日（土）

〔特別展「ユニバーサル・ミュージアム」関連〕

※テーマ調整中 山本清龍（東京大学准教授）、広瀬浩二郎（民博准教授）

第130回 2022年2月頃

※未定

2) 国立民族学博物館友の会みんぱく見学会

開催日時：土曜日 14：50～15：30、国立民族学博物館展示場で開催

通算回数（開催日）：「展示名」 / 講師(所属)

（新型コロナウイルス感染症が収束を迎えるまで当面の間、実施を見送る。）

3) 国立民族学博物館友の会体験セミナー

通算回数（開催日）： 講師(所属) / 訪問先 / タイトル / 内容

新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、下半期に企画を2回程度実施したい。

【企画候補】

- ・九州の山焼きを訪ねる（仮）
- ・人間文化研究機構の研究拠点を見学する（日帰り）
- ・関西の文化施設を見学する（日帰り）
- ・オンライン連続講座 等

4) 国立民族学博物館友の会民族学研修の旅

通算回数（開催日）： 講師(所属) / 訪問先 / タイトル / 内容

新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、収束傾向が見込めれば下半期に開催。

【企画候補】

時期：2022年2～3月頃の10日程度

訪問先：メキシコ（中米） 等

5) 国立民族学博物館友の会午餐会 ※国立民族学博物館維持会員対象

（新型コロナウイルス感染症が収束を迎えるまで当面の間、開催を見送る。）

6) オンラインレクチャー ※2020年度よりスタート

来館が難しい既存の会員へのサービスの提供とともに、友の会への新規入会を促進のため、Youtubeみんぱく友の会チャンネルへより広範な情報提供を主とした15分程度の動画（レクチャー）を、年に6回程度公開する。

□2021年度のテーマ：執筆者による季刊民族学解説、収集者による収蔵品解説

□公開日：①5月頃、②7月頃、③9月頃、④11月頃、⑤1月頃、⑥3月頃を予定

7) 外部広報事業

【企画候補】

阪急生活楽校 × 国立民族学博物館

大阪の表玄関、梅田に位置している阪急百貨店うめだ本店に設けられた、うめだホールと併設されているうめだギャラリーは、新しい生活文化の発信基地として、講演会や展示会等さまざまな目的で活用されている。国立民族学博物館の広報を目的とし、うめだホールを会場に、文化人類学の知見を生かした親しみやすいテーマで講演会を実施する。

(新型コロナウイルス感染症が収束を迎えるまで当面の間、開催を見送る。)

- 開催場所：うめだ阪急ホール（阪急百貨店9階）
- 主催：千里文化財団、阪急うめだ本店
- 特別協力：国立民族学博物館

国立民族学博物館巡回展「ビーズ」展 開催概要（案）

1. 名 称：特別展「ビーズーつなぐ、かざる、みせるー」（仮）
2. 概 要：ある特定の地域の文化に焦点を当てるのではなく、地球上に普遍的にみられる“ビーズ”というものをとおして、「人類とは何か」という人類学の基本課題を正面から追求すること、特に、私たち人類「ホモ・サピエンス」の文化の特質を理解することを目的として、国立民族学博物館の所蔵資料を中心に、世界における多様な素材で作られたビーズや社会的役割を担ったビーズなど、世界各地のさまざまなビーズを用いた展示をおこなう。なお、本展示では、“ビーズ”を「さまざまな個々の素材をつなげたもの」として定義し、それを構成する個々の素材については“ビーズ玉”と呼ぶ。また、今回の展示では、2017 年開催の国立民族学博物館 特別展「ビーズ」における展示構成を踏襲しながら、巡回展会場となる国立アイヌ民族博物館と協働することで、アイヌおよび北海道とその周辺地域のビーズ文化の特徴とその普遍性に焦点をあてた展示の拡充をする予定である。
3. 主 催：国立アイヌ民族博物館 国立民族学博物館 千里文化財団
4. 後援及び協力：未定
5. 開催期間：2021 年 9 月 19 日（日） ～ 11 月 23 日（火・祝）〈予定〉
6. 開館時間：平日 午前 9 時～午後 6 時 土日祝日 午前 9 時～午後 8 時
7. 会 場：国立アイヌ民族博物館 北海道白老郡白老町若草町 2 丁目 3-1
8. 展示点数：未定
9. 観 覧 料：未定
10. 関連事業：未定